

もっと知ろう！ - 暮らしと放射線

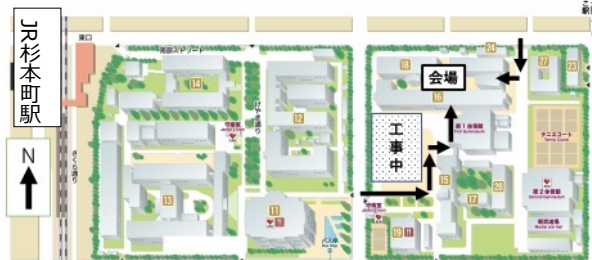
私たちの生活に深く関わっている放射線。その放射線を利用した、滅菌・診断・治療についてわかりやすく解説します。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

入場無料
事前申込不要
直接会場に
お越しください

日時 2022年9月17日（土）（15時開場） 15:15～17:00 定員200名

会場 公立大学法人大阪公立大学
杉本キャンパス 全学共通教育棟810教室
大阪市住吉区杉本3丁目3-138

司会 朝田良子・児玉靖司（大阪公立大学）



駐車スペースはございませんので、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

1. 殺滅菌分野における放射線利用

講師 古田 雅一 先生（大阪公立大学大学院工学研究科）



医薬品には滅菌が不可欠であり、また食品においても食中毒菌の殺菌や腐敗菌の殺菌による保存性の向上が求められています。加熱は古くから殺滅菌に利用されており、信頼性の高い方法ではありますが、熱に弱い医薬品や Disposable 医療用具などの滅菌には向きません。一方放射線滅菌は温度上昇が軽微であることや放射線の透過力が高いため最終梱包状態で処理できるなどのメリットがあります。同様に食品の殺菌にも放射線の利用が進んでいます。これらの特性について解説し、国内外における放射線殺菌の利用の状況について紹介したいと思います。

2. 放射線診療の最前線：医療被ばくと画像診断

講師 佐原 朋広 先生（大阪公立大学医学部附属病院中央放射線部）



私たち診療放射線技師は、画像診断の放射線画像検査を担っています。検査室では、患者様から「毎回、CT検査をして放射線被ばくは大丈夫なの？」という質問を受けます。私たちは「放射線被ばくのリスクよりも放射線検査の便益が大きく上回りますよ！」と答えます。CT検査に代表される画像診断は、放射線被ばくのリスクがあるものの、多くの病気を発見（時には早期発見）できる可能性があります。本講演では、リスクコミュニケーションの観点から「放射線被ばくのリスク」と「便益 = 放射線画像診断が有効であった例」についてお話したいと思います。

3. 体にやさしいがん治療BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）とは？

講師 切畑 光統 先生（大阪公立大学BNCT研究センター）



BNCTの保険医療は、世界に先駆けて2020年6月に我が国で始まり、次世代のがん治療として多くの注目を集めています。BNCTは低いエネルギーの中性子と、がん細胞に集るホウ素の反応を利用して、がん細胞のみをピンポイントで破壊に導く、手術や制がん剤等を必要としない体にやさしいQOL（生活の質）の高いがん治療です。BNCTのコンセプトは1936年に提唱され、その実現には多くの研究者が関わってきましたが、この講演では、BNCTのホウ素薬剤に焦点を当て、その原理と歩み、現状と展望等について易しく解説します。

大会事務局：大阪公立大学大学院理学研究科生物化学専攻放射線生物学研究室
〒599-8570 堺市中区学園町1-2 TEL:072-254-9855 大会HP <https://www.senkyo.co.jp/jrrs65/index.html>

協力：「みんなの暮らしと放射線」知識普及実行委員会

・お席は十分ご用意いたしますが、万一、規定の収容人数を超えた場合には、感染防止の観点から聴講をお断りすることがあります。
・マスク着用など、基本的な感染対策を徹底した上でご来場ください。また、感染の状況によっては中止となる可能性があります。